

---

# 狼の居場所

N

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狼の居場所

### 【著者名】

N Z ハード

N 5 4 6 4 M

N

### 【あらすじ】

小さい頃山に捨てられた少年「大神陸」。狼に5歳まで育てられ、人の心が分からぬ陸の学園生活が始まる！

## ウルフ」。▼e

「うへん…ふああ…」

太陽が空に顔を出しあじめる頃、時間は午前七時。

街から離れたところには「姫川」という大きな川が流れている。

その姫川の河川の前にはちょこんとむしゃらに立てられたテントの  
情景があった。

「旦、さますか。」

まるで犬のような四つんばいで河川まで歩く物体…いやいや人影があつた。

霧がかつた空氣の中、水がバシャバシャという洗顔の音だけが静かな河川に響いていた。

「今日から新学期だ。とつとと仕度すつかあ。」

Tシャツにパンツ姿でテントへ戻り、学ランをはおり、ズボンをはき、着替えました。

朝食は昨日の残りのカレーを皿にうつし、カタカタと音をたてて口の中へかきこみ、素早くすませた。

「やつべつー名札つけてねえ。」

はつと思い出し、「大神陸」（おおかみりく）と刺繡された名札を

取り、時計に目をやつた。時間は七時四十五分、縫つてている暇がないソロハンテープを輪状にして、両面テープのようにしてそのまま学ランに名札をはりつけた。

かばんをからつて川の東の方にある階段を一気にかけ上がりついた。通学路の途中で春のバーゲンの大安売りをしている店舗のポスターなどが目にはいり、春の訪れを感じさせていた。改めて言つが俺の名前は大神陸。

今日から俺も高校二年生。不安もあるがそれ以上に期待のほうが大きい。

あれこれ考えているうちに校門の前まで来ていた。校門の前には散りかけている桜の木の道があった。

桜の道をぬけると俺のお待ちかねのクラス割りの表が貼り出された。そこには中学からの親友である「秀島誠也」（ひでじませいや）の名前があった。

表を見終わると、俺は嬉しさのあまりスキップしながら、新しい教室へと向っていた。そして俺は高校二年生最初の教室に向をはたした。

「り…陸。よかつた！またお前が同じクラスなんて心強いよ。」

サイドからのいきなりの声で一歩足をひいてしまった。声をかけてきたのは、誠也だった。

「別に俺がいたって心強くないだろ。」驚きと照れがまざりてしまつたのか俺はとつさにそんなことを言つてしまつた。  
でも誠也はあるで俺の照れ隠しがわかっているかのようにニコニコと笑い、

「いやいやお前はガンダムでいえばストライクフローダムぐらいの心強さがあるぞ。」

などと俺には理解できないことを言つていたが  
「おー。ありがとな。」と言つて笑みをかえしながら答えた。

## ウルフ L o v e (後書き)

今回がはじめてなのでまたたりと見てください

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5464m/>

---

狼の居場所

2010年10月10日20時55分発行